

KALS 大学院入試対策講座

専属チューターからのメッセージ

チュートリアル通信

【2021 年度春期】税法科目免除 VOL.10



河合塾 KALS の大学院入試対策講座では、チューター制度を導入しています。チューターは当校の合格者 OB/OG を中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイドス「サクセスチュートリアル」や個別カウンセリングなどを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、税法科目免除・金田チューターからのメッセージです。今後の受験対策のご参考にしてください！



KALS チュートリアル通信 税法

検索

長かった税法コースの講義も終わりに近づいています。そろそろ研究計画書の出願が完了し、いよいよ、受験前という方が多い時期ですね。皆さんは税法免除がきっかけとなって大学院を目指しましたが、一般的に、社会人を経て大学院に入学を目指すことのメリットはどこにあるのでしょうか。今回は、「問いを立てる力」という点から、大学院と企業を中心にお話ししたいと思います。

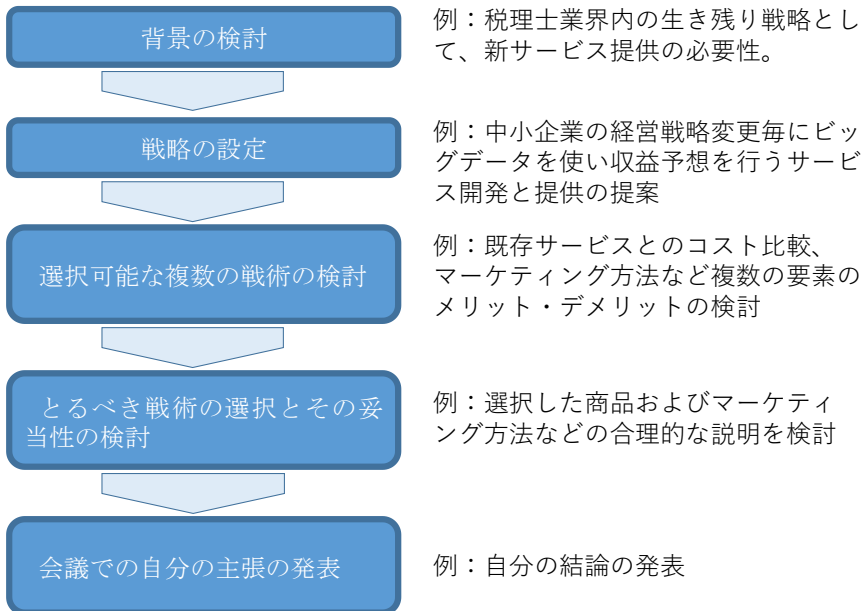
ディスカッションとディベート

ディスカッションとディベートの違いについて、まず、お話ししたいと思います。

通常、社内会議などで話し合う場合、それぞれの自分の立場によって主張をしますが、結論に至る過程で、お互いのメリットやデメリットを理解し、最終的にそれぞれ大なり小なり、自分の考えを変えたり修正することで結論に至ります。

これが**ディスカッション**です。つまり、自分の当初の主張を議論の中で変更することが期待されています。一方で、例えば裁判などで原告と被告に分かれて議論をする場合、明らかに立場の不利な側も全力を尽くして自分の正当性を主張します。そして、相手を論破するか、あるいはできる限り有利な結果になることを目指します。

これが**ディベート**の代表的なものになります。この場合、自分の立場は最後まで変更されないことが前提となります。



企業では、議論（＝ディスカッション）も多く行われますが、会議の中で、何らかの発表を行い、出席者との間で、ディベートのような場面もあり得ます。そして、そのような主張がされる発表には、左図のような事前のプロセスがあります。

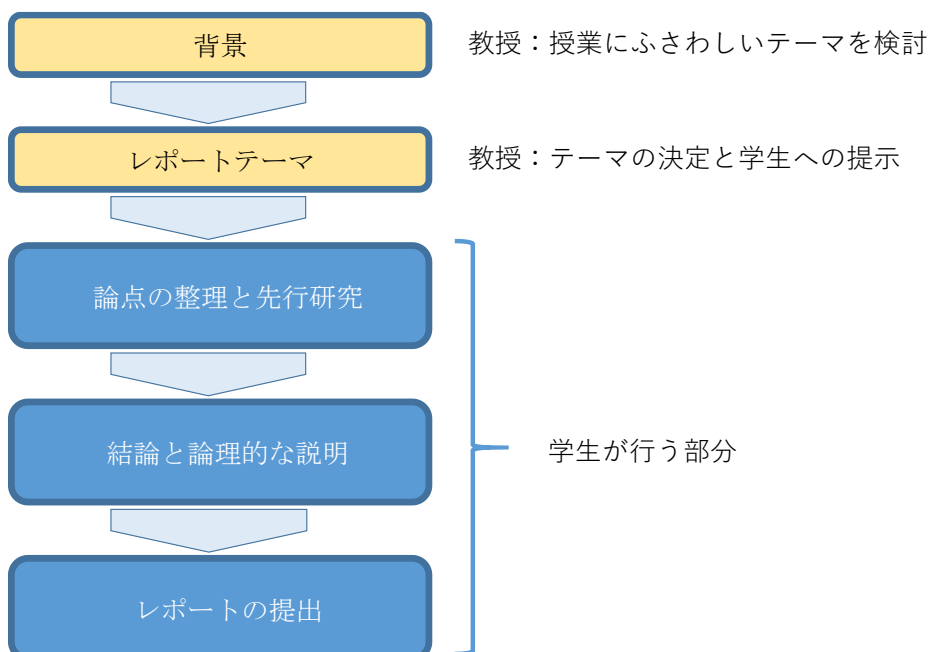
発表の中では、自分の選択した方法などについて、厳しい反論や、見通しの甘さを指摘されることとなります。立場を明確にして行うプレゼンテーション（＝ディ

ベート）は、結構つらいものです。企業にとって、「問い」を立て、その解決方法を探り続けることは、付加価値を高め続けるため必須の仕組みであるといえます。しかし、日本人には、なかなか身につく機会の少ない技術のように思います。

「問いを立てる力」のトレーニング

大学院に入学すると、すぐに気づくのがレポート提出の多さです（といっても、1科目1つの期末レポートが基本かと思われます）。これは、論文を書くトレーニングになっています。

実は、レポートの作成は、上記の図を以下のように変えると、途中からは同じことだということがわかります。



上記の会社の場合でも、なぜその検討をしなければいけないのかを考えることなく、部長が若手に、「新サービスについて検討してみなさい」などと頼まれることが多いと思います。その依頼を受けて行った発表は、このレポート作成と同じプロセスになります。

問題提起と、戦略の設定という段階、つまり「問いを立てる」プロセスは教授が行い、生徒は行っていないのです。

論文作成とは、教授がレポートのテーマを決めるところ、つまり、「問いを立てる」プロセスも含めて、自ら行わなければなりません。そして、ゼミなどの発表の場では、自分の立場を主張することになります。ディベートの場に似ていませんか？

時には、厳しい意見も受け、気が弱いと「これでは、論文が書けないからテーマを変えてしまおう」となりがちです。さて、社会人として、そのような行動がどのように会社内で評価されるのかは、容易に想像できませんね。

企業においても、検討すべきこと（＝「問い」）は、若手の時には、上司などから与えられますが、立場が上になり、また、独立などすると当然、すべての決定、判断などを自ら行うことになります。明確な問いを立て、戦術の選択に対する妥当な説明がなければ、顧問先や従業員はついてこないかもしれません。

若い方々にとって、論文を作成する作業は、このような社会人として必要なスキルを身に着ける貴重な場であると考えてもよいのかもしれないね…！



おわりに

現在の大学院2年生は、修士論文を仕上げて提出する時期になりましたね。

私が大学院生だった頃、大学院生としての2年間はとても短く、あっという間に感じました。

皆さんも、大学院に入ったら、あっという間に2年生になり、修士論文を執筆することになります。修士論文の執筆は、なるべく早くから書き始めたほうがいいです。なぜなら、早めであればあるほど、推敲する時間がたくさん設けられるからです！実際に修士論文を書いてみて、推敲の大切さがよくわかりました。なので、2年生の10月頃からは書き始められるように、夏休みに資料を収集しておくことをお勧めします！

